

オンライン開催 2021/03/13 NPO 人にやさしい色づかいをすすめる会主催
第 12 回 CUD 勉強会「色弱の幼児の対応とカラーユニバーサルデザイン」

【事前質問と回答】

Q1. もし自分に色弱の子供がいた場合、その子供が色弱であることをその子供に教えた方がいいのでしょうか。それとも教えずに自覚するまで待った方がいいのでしょうか。

【CUDO 井上】色覚タイプが不確定であるけれど、色の感じ方が違うと思われたときは、「顔色や体格がみんな同じではないように、色の感じ方もみんな同じではない」といったことを、なんとなく話されてはいかがでしょう。

P 型(強度・弱度)あるいは D 型(強度・弱度)であることが確定されたタイミングで、お子さん自身が、何色と何色が見分けにくいのか、あるいは、気づきにくいのかを知っておくことで、コミュニケーションをする上で役立ちます。また、「注意事項」「重要事項」「速報」など命に関わる情報は特に見逃すことがないように、自分で意識することにもつながります。

Q2. 多様な色覚をもつ子どもたちが色の世界に触れ、それぞれが色彩表現を楽しめるような工夫について、お伺いしたいです。また、当事者の皆さんが子ども時代に「こんな画材や教材があったらいいのに」と思ったものはあるのでしょうか?ということも。色の見え方にはいろいろあるんだ、ということも自然に学べる機会が増えることを願っています。

【CUDO 井上】

・幼児期は感性や絵を描く楽しさを育ててあげてほしいと思います。P 型や D 型色覚の子どもも、C 型色覚の子どもと同じように、自分の感じるままに色を使うことは、楽しいことですし、色彩表現を楽しんでいます。そして、幼児期にトマトやリンゴは赤色、ほうれん草は緑色といったことを楽しみながら、お子さんの記憶に残していかれるとよいと思います。「色名」を聞かれたときに答えることができます。

・画材については、色鉛筆や絵の具など「色名」を書かれた物を使ったり、色名が消えたり、書かれていない物には、色名を書くことはおすすめです。例えば、絵の具はチューブから出したあと、何色かわからなくなります。パレットに色名が書いてあれば、絵の具をおく位置が決まるため、赤に緑を混ぜてしまうといったことを防げます。

Q3. 公的な自治体の「色弱への環境整備」はどれ程の取り組みでしょうか。幼いお子達の外での当たり前も整うことが望まれます。

【CUDO 井上】多くの自治体で「カラーユニバーサルデザイン ガイドライン」のような“色づかいに関する注意事項”を発信しています。取り入れているケースとしては、避難地図やゴミカレンダーなどがあります。

- ・JIS 安全色は 2018 年に色覚の多様性に対応した色づかいに改正
- ・地震速報アプリ「ゆれくるコール」は、地震速報の震度別配色を「気象庁設定の CUD 配色」に改善

Q4. 昔、小学校時代に「色覚検査」を受けた記憶がありますが、最近では実施されていないように思います。色覚障害、色覚異常という考え方が今日では否定されて、色覚における障害の区別は日常生活上必要ないという考え方に変わったのだと理解しています。しかし特殊な色覚分別を要求される職業などは、色覚検査は今日も実施されているのでしょうか?また自分自身に色覚障害があることを自分で自覚しておく必要性はないのでしょうか?

【CUDO 井上】

- ・すべての国公立大学やほとんどの私立大学では色覚による受験制限はありません。就職(一部の職種)においては、色覚制限を設けています。そのときがきたら、事前に学校及び企業に問い合わせることをおすすめします。
- ・自分で自分の色覚タイプを自覚しておく必要があるかどうかについては、「自分の色覚タイプを、もっと早く知りたかった」という声の方が多いです。

Q5. 色弱の人に、色覚矯正メガネを、勧めても良いのでしょうか。見え方の違いについて、嫌になったりしてしまわないのでしょうか。

【CUDO 井上】C 型色覚の人と同じ色を感じられるようになるメガネ(矯正メガネ)は、存在していません。今、あるのは、見分けにくい色を見つけやすくするメガネです。これは、使い方を理解できる年齢になったら、使ってみるのもありだと思います。使ったことのある人は、「気づいていなかった色に気づいた！」とか、C 型色覚の人との見分けられる色の違いを知ったことで、「P や D 型の人にも、しっかり見分けられる物にして！って声を出すことは大事だね」など、声は様々です。

【開催中の質問と回答】

Q. D 型色覚は L 錐体があるのに、赤がわからないのか？

【CUDO 井上】D 型色覚は、L 錐体があるので赤い光を受け取ることができます。けれど、黄色や緑の光との色を区別することができないため、りんごを赤色と確定することはできません。緑と赤を見分けるためには、L 錐体と M 錐体が必要です。D 型色覚は、M 錐体がない状態ですので、赤と緑を見分けることはできません。